

令和3年度  
富里の教育



富里市教育委員会

市の木 山ざくら



昭和45年11月、住民から一般公募して(市の木)を「山ざくら」と決めました。

市章



富里の「と」と勝利の「Vサイン」の交錯によって、躍動と発展を表わし、周囲の丸は融和と郷土愛を象徴したものです。  
(昭和44年4月1日制定)

市の花 サルビア



平成10年4月、富里市の花選定委員会により住民アンケートを参考に(市の花)を「サルビア」と決めました。

## 市民憲章

北総台地の自然の中で健康で豊かな生活と香り高い文化を育て人と人のふれ合いを大切に心のかようまちをつくるためここに市民憲章を定めます。

一 豊かな大地を愛し

歴史と伝統を誇る

まちをつくりましょう

一 人と平和を愛し

世界にひらく

まちをつくりましょう

一 花と緑を愛し

心身ともに健康な

まちをつくりましょう

一 若い力を育て

勤労を愛し活力ある

まちをつくりましょう

一 郷土と文化を愛し

調和のある

まちをつくりましょう

## はじめに

学校では、今年も新型コロナウイルス感染症拡大が続いていることから、マスクの着用や手指消毒、また3密対策などが「新しい生活様式」として定着しております。今後も感染防止対策を徹底しながら、子どもたちの教育活動を進めてまいりますので、地域の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

御家庭の皆様におかれましても、感染症拡大防止のために、子どもたちの日々の体調管理や学校における感染症対策に御協力をいただきましてありがとうございます。心から感謝申し上げます。

また、本年度から「GIGAスクール構想」による1人1台端末が本市においても導入されました。子どもたちが専用端末でそれぞれの習熟度に合わせた問題を解き、理解を深めることは学習効果が大きく、デジタルならではの教材や機能を活用し、効果的な指導を進めてまいります。

なお、学校教育が協働的な学び合いの中で行われるという特性を持つことから、学校が担う役割といたしまして、つながりを生み出し、助け合う喜びを学ぶ場所であり、オンラインはそのための手段であるに過ぎないとも思っております。子どもたちが主体的に学べるよう、オンラインツールを文房具のように使いこなしてほしいと願っております。

さて、富里市教育委員会では、「家庭で育て、学校で伸ばし、社会で磨く教育」を教育スローガンに、「令和3年度とみさと教育プラン」を策定し、家庭教育・学校教育・社会教育の充実に努めております。

教育スローガンの1つ目の「家庭で育てる」教育については、教育の原点は家庭にあります。

子どもたちは家族との温かい関わりや体験を通して、基本的な生活習慣や生きていくために必要な社会でのマナーなどを学び成長していくものと考えております。

あいさつの習慣や早寝早起き、そして朝ごはんなど、毎日の生活の中で、保護者の皆様が責任をもって育てていただきますようお願いいたします。

次に2つ目の「学校で伸ばす」教育については、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、いわゆる学力の三要素と呼ばれる基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な、思考力、判断力、表現力等の能力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うよう努めてまいります。

最後に3つ目の「社会で磨く」教育については、人生100年時代を見据えた生涯学習を推進し、一人一人が学んだことを生かして地域に貢献していただくための事業や、地域の活性化の視点から社会活動に参画し、それぞれが生涯にわたり輝き続ける人材の育成を目指してまいります。

市民の皆様や教育関係の皆様には、富里の教育がさらに充実発展するよう、御理解と御協力をお願いいたします。

令和3年8月

富里市教育委員会教育長 吉野光好

# 目 次

はじめに

目 次

富里市の概要・・・・・・・・・・ 1

## 第1章 教育行財政

- I 教育委員・・・・・・・・・・ 3
- II 教育委員会会議・・・・・・・・ 3
- III 教育委員会機構・・・・・・・・ 4
- IV 教育委員会職員数・・・・・・・・ 5
- V 教育費・・・・・・・・・・ 6

## 第2章 幼児期の教育

- I 就園率・・・・・・・・・・ 8
- II 幼稚園・こども園  
    保育園紹介・・・・・・・・ 9
- III 障害児療育  
(簡易マザーズホーム・ことばの相談室)  
・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

## 第3章 学校教育

- I 小中学校紹介・・・・・・・・ 17
- II 学校施設一覧・・・・・・・・ 27
- III 研究指定等・・・・・・・・ 28
- IV 富里市学校給食センター・・・・ 29
- V 県立高等学校・特別支援学校・・ 30
- VI 学校保健・安全・・・・・・・・ 31

## 第4章 生涯学習・社会教育

- I 青少年教育・・・・・・・・・・ 32
- II 成人教育・・・・・・・・・・ 34
- III 社会教育行事計画・・・・・・・・ 36
- IV 社会体育の充実・・・・・・・・ 37
- V 富里中央公民館・・・・・・・・ 41
- VI 富里社会体育館・・・・・・・・ 42
- VII 旧岩崎家末廣農場別邸公園・・ 43
- VIII 富里市立図書館・・・・・・・・ 44

## 第5章 資 料

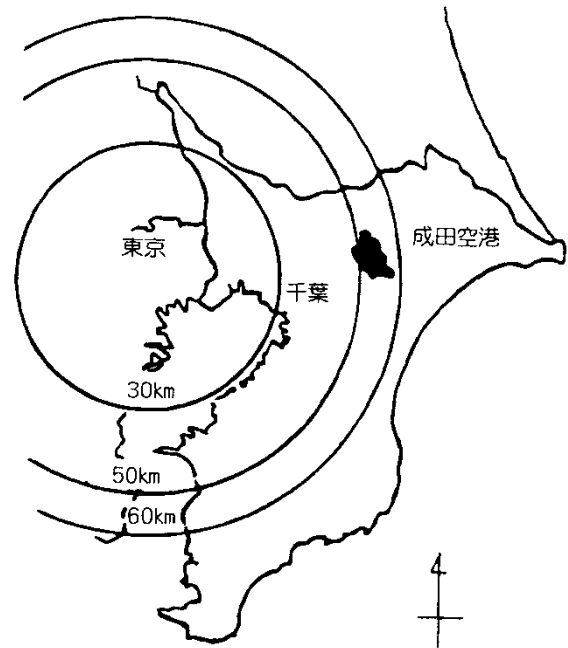
- I 各種審議会・委員会・協議会等・ 46
- II 教育機関等の位置・・・・・・・・ 57
- III 学校・学級数、児童・生徒数、  
    中学校卒業後の状況・・・・・・・・ 58
- IV 児童・生徒の体格、体力・・・・ 59
- V 学校医・学校歯科医  
    及び学校薬剤師・・・・・・・・ 63
- VI 県・市指定文化財・・・・・・・・ 64
- VII 国登録有形文化財・・・・・・・・ 75
- VIII 文化の振興・・・・・・・・・・ 76
- IX 文化財の保護・保存・継承・・ 77
- X 教育関係史・・・・・・・・・・ 80

## 富里市の概要

### 1 位置及び地勢

富里市は、千葉県北部の北総台地の中央に位置し、東京都心から東に50～60km圏、成田空港からは西に4 km、東関東自動車道によって都心及び空港と結ばれ、東西約10km、南北11km、面積53.88km<sup>2</sup>を有する市です。

東は芝山町、西は酒々井町、南は八街市・山武市、北は成田市に接し、根木名川・高崎川の源流をなし、肥沃な農地や自然環境に恵まれています。



### 2 沿革

今から約数万年前の旧石器時代、東内野には直径250mほどの池があり、周辺からは1万数千点にのぼる石器や剥片などが発掘されました。これが東内野遺跡で、旧石器時代のこの地での人々の生活を解き明かしてくれました。また、南大溜袋遺跡は縄文時代初期のもので、137点の遺物が発見されています。新橋、古囲、葉山の遺跡は縄文時代中期の遺跡ですが、弥生時代の遺物は少なく、南大溜袋と日吉倉烏山遺跡からわずかに土器が見ついているだけです。

古墳時代となると、この地域一帯に勢力をふるう豪族が早くも現れ、日吉倉東端地区から3基の方形周溝墓が発見されています。大和朝廷が関東にまで勢力を伸ばすと、力を持つ地方豪族を国造や県主に任じ、地方行政に当たらせました。『国造本紀』によると、房総の国には九つの国造が任命され、富里は「印波国造・軽島豊明朝」が治めていたと記されています。

また、このころの遺跡とされる烏山2号墳からは、鉄製の武具や須恵器群が見つかり、当時の富里は政治的にも軍事的にも重要な地域であったことがうかがい知れます。

平安時代に入ると、平将門の乱を機に房総一帯は戦乱が絶えず、江戸時代に至るまでは支配者も次々と替わり、領内はすっかり荒廃してしまいました。下総一帯とかかわりの深い千葉常胤は、源頼朝を支援し幕府を樹立した功労者として力をつけ、鎌倉時代以降はその支族の中沢氏、立沢氏、三谷氏がこの地方に勢力を張っていましたが、戦国時代になると、豊臣秀吉の小田原征伐によって、千葉氏一族は北条氏とともに滅びていきました。

徳川家康が全国を統一すると、現在の富里市域のほとんどが佐倉藩領となり、そのうち根木名川流域の地域では農間余業として薪炭の生産が盛んでした。根木名川と高崎川に挟まれた台地には佐倉七牧の内野牧と高野牧が広がって

ましたが、明治維新の政変によって失職した武士などの対策として明治3年から入植、開墾が着手されました。同8年には大久保利通によって、下総牧羊場が開設されましたが、その後牧場用地が一般開放され、開墾によって広大な畑作地帯へと変貌しました。明治6年には富里地域は千葉県に属することになりました。その後、行政区画や地方自治の制度が整えられ、明治17年には現在の富里を構成する13か村の連合が実現します。そして、明治22年4月1日、これら村々が一体となって、13か村を意味する“十三”と、豊かな郷土にとの願いをこめた“富”をかけて命名された「富里村」が誕生しました。発足当時の世帯数は801戸、人口は3,769人でした。

その後も豊かな農業地帯として発展を遂げてきましたが、昭和46年の東関東自動車道富里インターチェンジの開通や昭和53年の新東京国際空港(現成田国

際空港)開港などを経て、産業の活性化と人口の流入が続きました。首都圏より60km以内という恵まれた地理的条件と、新空港を核とした圏域が形成されることが要因となって、それらのベッドタウン的位置付けを持つに至るとともに、農業も都市近郊農業へと変容していきます。現在ではニンジン、すいかの全国有数な産地となっています。また、昭和59年から開催の「富里スイカロードレース大会」は、令和元年の第36回大会では、1万536人の選手が参加しました。(第37回・第38回大会は中止)

昭和60年4月1日に町制を施行して、「富里町」となり、平成元年には富里誕生100周年を迎え、同14年4月1日に市制を施行し、今年で市制施行19周年を迎えました。今後も長期的な視点から成田空港を核とした新たな国際空港都市の実現を旨とすことにしています。



第36回富里スイカロードレース大会  
(令和元年6月23日開催)